セイヨウヒルガオが広島市内に帰化

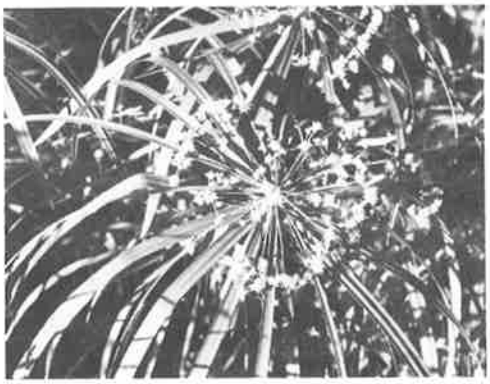
セイヨウヒルガオ（ヒメヒルガオ）*Convolvulus arvensis L.*が1978年6月12日に広島市南観音の太田川放水路土堤で当園の青山幹男が採集した。調査したところ，本種であることを確認したので報告する。

セイヨウヒルガオは，ヨーロッパ原産でヒルガオ科の多年生草本であり，戦後急に野生化したものといわれ，関東地方では普通にみられるが，関西ではまれである。原色日本帰化植物図鑑（保育社，長田武正著）の帰化植物分布図によれば，中国地方では確認されていないことになっているので最初の記録であろう。確認地では約3平方メートルの群落であったところから，今後広がっていくと思われる。

（榎本克彦　記）

シュロガヤツリが太田川畔に帰化

太田川土堤や河岸湿地の植物を再々踏査する機会を得ているが，昭和54年1月12日広島市牛田本町六丁目から高陽町矢口にかけて約3㎞に渡り，調査した際，牛田本町よりの河岸湿地のヨシ群落のなかに点々とシュロガヤツリ(*Cyperus alternifolius* Linn.)が帰化しているのを確認した。



シュロガヤツリ（*Cyperus alternifolius*）

本種は，マダガスカル島原産の多年生草本で湿性地に生育するものである。明治25年に日本に導入され，主として温室で育てられ観賞に供していたものであるが，最近切花などに活用され，広島地方ではしばしば庭植えされてきている。種子や葉冠に育つムカゴで容易に繁殖する性質からも今後ヨシ群落に代ってシュロガヤツリの大群落へと推移して行くであろう。

なお，旧太田川古川の湿性地でも，本種が確認され，広島市文化財，第10集「広島市古川地域の植生とフロラ」（1977－3，広島市教育委員会）に記録されている。

（榎本克彦　記）

オキナグサを五日市町倉重で確認

普通の山野の陽地に生育すると言われるオキナグサ（*Pulsatila cernua* Spreng）は花が美しいことなどで乱獲されたり，宅地化により自生地を失いかけている。

1978年5月6日　広島県佐伯郡五日市町倉重本谷でワラビ狩りに出かけた同町坪井の上原氏は，本種を採取し，持参された。このとき，自生地を聞き，のち調査・確認したので記録しておく。

植物公園敷地に隣接する北側の民有地で，海抜140ｍぐらいの南向きの急斜面で，ススキ，ヒメヤシャブシが優占する約200㎡の場所に，開花株を含め，10余株を確認した。このうち，ヤシャブシの成長で半日陰となり，いずれ枯死するであろう株を1株採取し，生品の保存を目的に植物公園で栽培し始め，現在では3株に株分けされ増えている。

自生のオキナグサ
（*Pulsatila cernua*）

（榎本克彦　記）